



広島中央トピックス

相続・終活セミナー 特殊詐欺防止も呼び掛け



J A 黒瀬支店ふれあい委員会は2月4日、同支店で相続・終活・特殊詐欺防止セミナーを開きました。組合員や地域住民ら約40人が参加。相続や特殊詐欺被害に遭わないための心構えを学びました。

久能司法書士事務所の久能秀行司法書士が、相続トラブルの実例を交えながら円滑・円満に相続するための遺言書の作成など、事前準備の重要性を伝えました。

また、東広島警察署生活安全課の堂脇高平課長が、詐欺

の手口や危険なフレーズ、警察の対応などを説明。「お金の話しを持ち出されたら、まずは疑ってほしい」と呼び掛けました。



▲相続について説明する久能司法書士

地区別組合員集会 5会場で開催



J A では、各地域で組合員集会を開いています。広島中央地域では2月、5会場で集会を開き、延べ1100人の組合員とJA役職員が意見を交わしました。

J A は、12月末の仮決算状況や支店、アグリセンターなどの事業概況を報告しました。また、営農振興計画に対する基づく令和7年度上期の実施状況、総合ポイント制度の廃止、葬祭センターの料金改定などにつ

いても説明しました。

組合員からは、今後の米価の見通しや米の概算金と買取価格の価格差などの質問があり、常勤役員や職員が回答しました。



▲西条町で開いた集会

レンコン収穫・餅つき体験 グリーンツーリズム



J A 青壮年連盟広島中央地区本部は2月15日、農業の日帰り体験企画「グリーンツーリズム」を三原市大和町で開きました。同町特産のレンコンの収穫や餅つきなどを通して、農業や農村への理解を深めました。

小学生、大学生、一般の6人と同連盟の部員とその家族10人が参加。同町でレンコンを栽培している部員の金原貴生さんの水田で作業を体験。胴付き長靴と腕手袋を着用して水を張った水田に入り、ホースで水圧をかけて泥と水をよけながらレンコン約10kgを掘り上げました。

参加者は、きねと臼で餅をつき、手で丸めた他、掘りたてのレンコンを炭火で焼いて味わいました。

参加した大学生の岸杏咲さんは「将来は農業に関する仕事に就きたいと参



▲餅つきを体験



▲つきたての餅を丸めました



▲レンコンを収穫した参加者

加した。農家との交流もできて貴重な体験だった」と喜びました。同本部の北台昇平委員長は「交流を深めることで地域とのつながりを広げていきたい」と話しました。



水 稲

育苗管理と田植えについて

4月は田植え準備で忙しくなります。管理のポイントについてご紹介いたしますので参考にしてください。

◆令和7年産水稻種子の休眠について

令和7年産の異常高温から、水稻の種子は休眠(不利な条件にあったため発芽しにくくなっている状態)が深くなっている可能性があります。塩水選を確実に行ない、浸種の際は水温が10℃以下に下がらないようにしてください。

◆適地適作を

極端な早植えや遅植え、気候に合わない品種を無理に植えないようにしましょう。

稲作の基本は適地適作です。近

年、極端な早植えや作業の遅れにより遅植えになるところを見かけます。田植えの時期は「水稻栽培ごよみ」を参考にし、気候が安定するゴールデンウィーク明けから6月10日までに田植えを完了するようにしてください。

また、近年は温暖化により高温基調が続いています。本来、日本の稲作は冷害との戦いでした。安定した収穫量を確保するためにも「恋の予感」などの晩生品種は標高250m以上の田では植えないようにしましょう。

◆播種から育苗について

十分に浸種した種子を催芽により発芽を揃えます。30℃で24時間が基準ですが、環境により進み過ぎることや、ムラになることも多いのでよく観察するようにしてください。

催芽が完了したら、いよいよ種まきです。育苗箱1箱当たり催芽粒で160〜180gを均一に播きます。厚播きになると2段階や蒸れ苗の原因になります。

播種後は「ナエファインフロアブル」1000倍液を1箱当たり200ml、ジョウロなどがかん水の代わりにか

けて覆土をします。

播種後、育苗器などで2〜3日間積極的に加温(28〜30℃)し、発芽を揃えるようにしてください。温度管理は特に気を付けるようにしてください。また、芽が出すぎないように観察注意をしましょう。

出芽が1cmを超えたら、ハウスやトンネルに並べます。出芽したの苗はまだ強い日差しに弱いので、不織布やシルバーポリなどで遮光し、徐々に緑化させます。当然この時は温度変化にも弱いので、昼間は20〜25℃、夜間は15〜20℃で管理します。また、晴れた日や風の強い日は乾燥するので土が乾いているようなら細かいシャワーで水やりをしてください。

草丈が3〜5cmになったら、遮光を取り除き硬化させます。これは苗を外の環境に馴らす順化作業になります。

◆初期除草剤の散布について

除草剤は田植え前に初期除草剤、田植え後に一発除草剤を使用する体系処理が最も望ましいです。

但し、初期除草剤を代かき後に使用すると農薬の使用基準により、7日間は田植えができません。作業

工程を今一度確認し、代かきから田植えの日数が近い場合は田植え後すぐに初期除草剤を散布し、その後2週間を目安に一発除草剤を散布する方法に切り替えてください。
※「かみつぐーkg粒剤」は、代かき後から移植前までは使用できませんので注意してください。

◆箱処理剤について

田植え当日に使用する箱処理剤はウン力に卓効がある「ピラキサルト」を含有する「防人箱粒剤」か「スクラム箱粒剤」を使用してください。

毎年、除草剤との誤使用が数件必ず発生していますので、くれぐれも間違えて除草剤を箱に施用することが無いように注意してください。特に田植えに手伝いを呼ぶ方は要注意です。

箱処理剤は粒剤ですので、除草剤はフロアブル剤かパック剤に変えてみるのも誤使用を無くす一つの手法です。

※農薬を使用する前は必ずラベルを確認するようにしましょう。

野菜

ミニトマト

家庭菜園の季節がやってきました。今年も色々な野菜を栽培し、新鮮な野菜を食卓へ届けましょう。

家庭菜園におすすめの野菜にはナス・ピーマン・キュウリ・トマトなどたくさんありますが、今回はミニトマトについて紹介します。

ミニトマトとは果実の大きさが5g〜30gほどの小さなトマトのことを総称しています。果実部分の割合が多く、酸味が少なく甘み強いのが特徴です。

また、ミニトマトに限らずトマトには「リコピン」が含まれています。「リコピン」は赤い色の素となる成分であり、強い抗酸化作用があり、※活性酸素の働きを抑える効果があると考えられています。加えて、βカロテンやビタミンCといった栄養成分も含まれています。

ミニトマトはプランターでも栽培可能ですのでぜひ、家庭菜園

の品目としても栽培してみてください。

(※活性酸素とは体内で酸素が変化して生まれるもので過剰に増えると細胞を酸化させ、老化や病気の原因になると言われています。)

◆定植

ミニトマト栽培では水持ちがよく、かつ、排水性の良い圃場を選定しましょう。定植する畝について1条植えの場合畝幅は150cmで、株間は30cmにし、2条植えの場合は畝幅180cmで株間45cmにしましょう。

定植苗は、本葉6〜7枚くらいの苗を定植します。また、その際にはポット(土)の表面が上に出るよう浅植えとし、花房が通路側に向くよう注意しましょう。

◆肥料 (10㎡当たり)

堆肥を30kg、「ミネラルGスーパール」1kg、「畑のカルシウム」1〜2kg、「やさい189」1kgを使用し、追肥として「やさい129」0.2kgを収穫期が近くなったら施用します。

◆摘心・整枝

収穫目標の最上段の花房の花が咲いたら、その上2葉を残して摘心しましょう。またその際はハサミを使わず指先でつまんでかきとるようにしましょう。

茎を誘引する際は後々茎が太るのでゆとりを持たせて、支柱に対して8の字に誘引します。

収穫が終わると、その段より下の葉は除去して風通しを良くし病害の発生を抑えましょう。

◆収穫

収穫期は実が真っ赤に完熟したタイミングが最適です。品種や栽培環境によって異なりますが、一般的には開花から40〜50日後が目安で、5月中旬〜10月上旬にかけて長期収穫ができます。

また、高温期は果実の成熟が早いので収穫が遅れないようにし、早朝に収穫すると果温が低いため果実の水分が保持され、美味しさが長持ちします。逆に日中に収穫すると果温が上がるため水分が蒸発しやすくなり、美味しさが長持ちしません。

追肥は、収穫期が近くなったら

開始しましょう。土が乾燥していたらかん水し、追肥をしましょう。また、雨上がり等に、元気がないようでしたら液肥(300〜500倍)を全体に散布してください。

なお、追肥をやり過ぎると樹が大きくなり過ぎて花が着かなくなり、病害虫が発生し易くなりますので、追肥のやり過ぎには注意してください。

また、病害虫の防除等の栽培管理については、お近くのアグリセンターや営農指導員にご相談ください。





規模拡大で地域農業を支える
「大和町」合同会社のうしん

大和町の合同会社のうしんは、水稲と野菜作業受託を組み合わせた大規模経営で地域農業を支えています。春の端境期を解消するため、今年新たにハウス2棟(7a)でホウレンソウの周年栽培をスタートします。機械化やスマート技術などを取り入れた新たな農業の確立に向け、挑戦を続けています。

同法人は、平野孝美さん(44)と妻の由子さんが2025年7月に設立。代表の孝美さんは稲作農家だった父から事業承継して2018年に就農しました。就農初年度から白ネギを導入。初夏から冬まで出荷できる体制を整えました。規模を拡大して事業を進める中、社会的信用の高い法人化に踏み切りました。

水稲22ha、白ネギ1ha、キャベツ1ha、ピーマン10aなどを栽培しています。ドローンによる農薬や除草剤の散布作業は、昨年度延べ120haを請け負い、夫婦で作業に従事しました。JAから土壌改良剤の散布作業も請け、同町の生産者を支援しています。

従業員9人を雇用。男性は機械などの作業全般を担い、女性は野菜の出荷作業を主に担っています。



▲合同会社のうしんを立ち上げた平野さん夫婦

規模を広げながらも安全・安心や品質、おいしさにこだわり、野菜作りには有機質肥料を使って地力を高めています。産直市などへの白ネギ出荷には、大和中学校の生徒が考案したマスコットキャラクタ「ネギー」を使って大和地域農業振興部会が作成したパッケージを使用。同町のPRにも一役買っています。

孝美さんは「野菜の規格外品を有効利用するなど、地域の生産者の手助けにもなること仕組みを作っていきたい。農業で地域を活性化したい」と話します。

Information お知らせ

**アグリセンター
農繁期の休日営業お知らせ**

広島中央地域のアグリセンターは、春の農繁期に次の期間、休日営業を実施します。どうぞご利用ください。

【実施開始】4月18日(土)～5月31日(日)

【営業時間】午前8時30分～午後5時

※6月以降の日程は、来月号でお知らせします。

**広島中央農機センター
農繁期の休日対応について**

広島中央農機センターでは、春の農繁期に次の期間、土・日・祝日の休日営業を実施します。

どうぞご利用ください。

【実施開始】4月18日(土)～5月31日(日)

【営業時間】午前8時30分～午後5時

東広島市
園芸センターより

短期農作業体験のご紹介

園芸センターでは、ガラス温室、ビニールハウス、露地を使用して、野菜・花き・果樹の新しい栽培技術や品種比較、現地での課題解決に向けた実証栽培などを展示しています。

これら実証展示栽培に関する農作業は、園芸センターの職員と地域農業推進指導員が実施しており、この作業を職員と協働で実地体験していただきながら、農業や就農について考える機会を提供しています。



▲葉物野菜の種まき作業



▲夏野菜の収穫作業



▲西条柿の収穫作業



▲切花の出荷作業

- ◎1時間から体験可能!
- ◎定期的な体験も可能! (※事前面談が必要です)
- ◎職員が丁寧に説明します!

お問い合わせ

東広島市園芸センター
Tel 082-433-4411

